

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念「ほっとハウスのおひさま暮らし」「初めに利用者ありき」を事務所に掲示し、共有できるようにしている。また、全体会議、社内研修、個人面談の際に理念について確認している。	法人理念『初めに利用者ありき』は、職員がご利用者様と信頼関係を築ける様に、資質の向上を目指しています。常に目につく場所に基本理念が掲示され、社内研修や全体会議、個人面談で振り返りをして、取り組んでいます。SNSの発信もしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	コロナウイルス感染症が5類となったが、感染対策は引き続き行っている中で、地区の神社に初詣に行ったり、お祭りに招待され「獅子舞」を観に出掛けたりしている。また、近くの直売所に食材の買い物に出掛けている。	近くに直売所があり、食材の買い物に行ってお話をしたり、お裾分けを頂いたりしています。神社の神事に招待され、初詣も実施しています。民生委員の視察受け入れや、地域の生き生きサロンの園芸療法を取り入れ、ご利用者様に生け花を楽しんで頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の折に、民生委員さんから三郷地区の民生委員の視察の申し出があり、2回に分けて、施設見学や介護についての相談や質問をお受けした。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しているが、コロナの発生状況で見合わせた時は、文書でお知らせする事もあった。開催出来た時は、行政・区長・民生委員・利用者家族代表が参加され、利用者様の状況を説明させて頂いている。	地区区長、民生委員、利用者様家族、利用者様代表、行政など、コロナについてや避難場所等、2カ月毎に開催される運営推進会議で話し合われています。各委員の意見など、会議録を確認しました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議・介護認定調査・生活保護の方への面談等、行政の方が来所した際に事業所の日頃の様子を見て頂き、情報交換をしている。	運営推進会議のメンバーとして関わって頂いています。ご利用者様の様子やイベント、運営体制や会議報告、活動状況報告や職員の得意分野の紹介などを、お便りで見て頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修委員が中心となって、内部研修や勉強会を行い、意識の共有化を図っている。身体や言葉の拘束等を含めて、日々お互いに相談したり注意し合っている。玄関の施錠はせず、見守りをさせて頂いている。	法人の年間計画に従って、内部の研修・勉強会が行われています。運営推進委員会で身体拘束廃止委員会の取り組みを話しています。利用者様との会話が楽しみな職員、職員の趣味、気分転換にも留意され、お互いに気になったことは相談でき、注意も出来る信頼関係を大切にしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、内部研修等で勉強会を設けて意識を深め、防止意識を高めている。虐待が起きそうな心配がある時は、必ず報連相を行い、虐待に至らない様にしている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体会議や社内研修の際に、利用者様の自立支援について勉強の機会を設けたり、利用者様に成年後見人がいる方や、生活保護の方がいる為、職員皆に理解を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に「利用する為の契約」「身体拘束」等、契約書類を分けて、わかりやすく説明できるように配慮し、時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の日々の様子や、各種行事の内容を盛り込んだ「ユニット便り」を毎月1回発行している。また、SNSを通じて発信している。ユニット便りは、運営推進会議の折にも配布し、ご家族代表者から意見を頂いたり、面会や電話で意見・要望を頂き、会議に反映している。	運営推進会議には、利用者代表、利用者家族代表に出席頂き、ご家族代表が出席しやすい様、曜日に配慮しています。SNSの発信や写真をふんだんに使ったユニット便りで、ご利用者様の様子を知って頂き、ご意見・ご要望もお聞きして反映できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年3回の人事考課にて職員は自己評価を行い、それに伴い面談を行っている。それ以外にも随時面談を行っている。また、ユニット会議のアンケートを実施し、意見が反映できる環境となっている。	毎月のユニット会議では、行事やレクリエーションに、職員の得意分野を生かした提案を取り入れる様にしています。法人として人材育成部があり、介護福祉士が9割を占めています。人事考課では自己評価と面談を実施しています。職員同士が仲良く、各自が30分の休憩を取れるように改善した事例を聞きました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事制度による賃金規定を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により昇給・昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も、個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修を行っている。研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も、希望者は参加出来るよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	弊社法人グループの事業所の職員と交流の機会を設けたり、外部研修・介護福祉士会の研修等で他事業所の方との意見交換が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人と面談を行い、現在利用しているサービス機関とも連携を図り、様子や性格等の把握に努め、入居後1ヶ月程は特に配慮し、様子を見守りながら関係性を構築し、気持ちを引き出せるように努めている。情報共有を図り、安全・安心に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族や関係者に、今まで家庭ではどのような生活をされていたかを伺い、グループホームでの生活との違いをご理解頂き、家のような生活を継続出来るように、本人や家族の不安や要望に沿える関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に現状を十分にお伺いして、当ホームの説明と他施設との違いを理解して頂き、状況により、他の施設を紹介する事も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「利用者様のために」の理念に基づき、笑顔を絶やさず、寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるように利用者様との関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の「お便り」やSNSにて利用者様の日常の出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないよう努めている。感染対策が必要だが、場所を決めて、短時間の面会をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月の行事や昔からの習わしを続け、感染対策を行いながら体調に合わせた外出を計画している。また、ご家族様が、利用者様のお好きな物を差し入れて下さっている。	季節感を大切に、季節ごとの習わしなどを実施しています。借りた畑でかぼちゃ・さつまいもを収穫しています。またご利用者様のご家族から野菜や果物の差し入れがあり、頂いた栗で栗ご飯やモンブランに挑戦したとの事です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係に合わせた席を考え、穏やかな交流が出来る様に雰囲気作りに努め、コミュニケーションが図れる関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設・他事業所へ入所された場合でも、ご家族にお会いする機会があれば、失礼のない様に様子を伺ったり、その後も支援に努める旨をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室や入浴時等、日常の会話の中でホームでの生活の要望や意向・希望を丁寧に聞いて、意向に沿える様にしている。情報をカンファレンスに繋げている。	入浴時や一対一で会話できる時に、以前出掛け場所や思い出をお聞きしたり、ご希望や職員に伝えたい事、人間関係などを傾聴しています。お聞きしたことはカンファレンスに繋げて、出来るだけ思いに沿えるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の本人の意向を大切に、家族や居宅サービス事業所と連携し、生活歴・サービス利用履歴を聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子を観察し、スタッフ同士の引継ぎを大切にして現状の把握に努めている。毎月実施しているケース検討会で情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニットリーダーとスタッフは、利用者様の日常の様子把握に努め、ユニット会議で計画を行い、介護計画の見直しや改善を図っている。本人、家族の意見がプランに反映できているかを面会時等に伺い、同意を得ている。	法人の医療研修で学び、共有しています。一人ひとりの利用者様のケアに関する事は、担当以外からも意見を聞き反映できるようにしています。医師から指示書を頂き、グループホームでの、週2回のリハビリ在宅医療マッサージを受けて頂いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れて、スタッフ間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の面会や電話でのお問い合わせ時に、ご本人の希望や思いをお話しし、希望等を取り入れるよう取り組んでいる。個別支援が出来るような職員教育をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治区の区長・民生委員の方々の協力を得て、地域の情報を頂いたり提案して頂き、施設周りの地域資源を活用し、地域の神社へ初詣に行ったり祭典に行かせていただいたり、直売所へ買い物に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、入居時にご本人やご家族に選択して頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。またスタッフと情報共有し、受診後の様子をしっかりと伺い、必要に応じた対応をしている。	入居時にご本人・ご家族に説明し、かかりつけ医を選択して頂いています。協力医は月に1回の往診体制があり、週1回の訪問看護と併用しています。また複合の疾患などは、別の医療機関をご家族と受診していただき、連絡と情報記録を共有し、服薬支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護時に利用者の様子を伝え、必要時は電話で相談に乗って貰っている。また、主治医の所の看護師にも受診の折や往診時に相談し、対応方法を教わりながら必要に応じた介護をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、病院関係者との連携を図っている。病院からカンファレンスのお知らせがある時は、管理者と都合が付けばユニットリーダーがお伺いして同席させていただき、円滑に退院できる様、調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針について説明し、同意を得ている。利用者様の状況に応じて、主治医・本人・家族と話し合い、グループホームで出来る事を理解し納得して、スタッフとも話し合いながら看取りに取り組んでいる。	ご利用者様とご家族に、契約時に看取り指針について説明して、同意を頂いています。法人の研修や県の研修を受け、皆で情報共有しています。主治医、ご本人・家族と話し合い、訪問看護師へ相談しています。看護師資格所持の職員もいるので、スタッフと話し合いながら看取りをさせていただいた、との事です。	ご遺体の引き取りの期限について、ご家族と取り決めをして、文書で交わし捺印をお願いするなど、グリーフケアとは別に配慮が必要と考えます。今後に生かすことを期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所の研修の年間計画に、急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。利用者様の予測される急変については、スタッフの中で情報共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の昼夜想定避難訓練を実施している。今年度は、運営推進会議の折に地域の方やご家族代表者を交えて、消防署職員に指導頂き、実施している。また、夜間想定避難訓練も職員会議の折に行っている。	火事や自然災害想定で、年2回、昼夜想定避難訓練を実施しています。運営推進会議時に、地域の委員とご家族代表、行政が出席され、消防署から立ち合いの指導を受けながら実施しました。避難場所など具体的に安全対策が話し合われました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様が人生の先輩である事を忘れずに、明るく和気あいあいとした生活の中でも尊厳を大切に、一人ひとりの表情や目を見ながら丁寧に接することを心掛けている。排泄や入浴時、プライバシーを損なわないよう、言葉掛けに配慮している。	ご利用者様とご家族に、これまでの話を伺った上で、安心して明るく楽しく過ごして頂ける様に支援しています。排泄表を基に表情などから読み取り、排泄時の言葉掛けの際はプライバシーに配慮しています。入浴時はお話を聞くように心掛けて、整容にも気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけや会話を大切に、ご本人の意向を伺いながら、希望があれば無理のない範囲で対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	毎日の体調や様子によって、どうしたいかご本人に伺い、見守り、日々を穏やかに安心して過ごして頂けるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え等は、ご自分で選んでいただき、本人の意向を大切に、いつも清潔でいられるよう支援している。訪問利用にて、希望のヘアスタイルにカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は法人の四季彩デリバリーより届いているが、アレルギーや苦手な食材については代替食品を用意するなど好みに合わせている。また、日曜日の昼食はホールで作る為、希望を献立に反映し、一緒に調理や取り分けまでやって頂いている。	法人のセントラルキッチン・四季彩デリバリーから、季節の食材を使った食事がテルドで届きます。肉や魚が苦手なご利用者様に合わせ、代替食の工夫をしています。食事は元気に活動していただける目安にしています。日曜日の昼食は希望メニューを取り入れ、直売所に買い物に行き、調理などを手伝っていただいています。季節の果物などもおやつに提供されます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に摂取量・水分量の確認をし、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をして食事形態や盛り付けにも工夫をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声掛け誘導を行い、口腔ケアに付き添い見守りながら実施していただいている。できるだけ本人の意思や意欲を取り入れたケアをしている。訪問歯科の受診相談も行っている。使用している歯ブラシ・コップも定期的に消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう支援をしている。ご本人の意思と状態に沿った排泄介助をしている。	排泄表には細かな記録が取られ、スムーズな排泄のために水分量の工夫をしています。運動面では、グループホーム内を歩いたり、緑が豊かな中庭を散歩するなど、リラックスできる環境を整えています。ご利用者様の意思を大切に言葉掛けもされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を利用し、便秘予防に食材の工夫や水分摂取・適度な運動や歩行訓練を心がけ、必要に応じて医師に相談し、個々の状態に応じた服薬管理をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様の希望を確認しながら、1週間に最低2回以上は入浴できるようにし、健康状態や精神的な面も見極めて入浴支援をしている。一応の入浴時間は決めているが、ご本人の希望時間にも対応している。	安全面に配慮した明るい浴室です。入浴はご利用者様が週に2～3回、午前中を基本にしていますが、その時の希望や気持ちを大切にしています。着替えを一緒に用意するなどし、入浴後の保湿も留意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1日を通して、一人ひとりの習慣や希望・体調に応じて自由に居室で休んで頂けるようにしている。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の調整をするよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬係を主に、スタッフが薬の変更や服薬についての情報を共有化し理解するために、申し送りノートを活用している。一人ひとり薬入れに仕分けし、誤薬のないよう職員同士で服薬前に確認をし、利用者様にも氏名の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1日を通して、調理・副菜の盛り付け・食器洗い・食器拭き・洗濯物干し・洗濯物畳み・掃除等それぞれの役割を持って生活出来るように支援している。また、毎月、季節感あふれる行事を計画し、楽しみのある生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染対策をしながらでも出来る事を探し、利用者様の要望に合わせた外出の機会を作り、季節の花を見たり、ぶどう狩り・りんご狩りの計画をしている。	春・夏・秋・年末年始と外出計画があり、季節(桜2か所・バラ・牡丹・蓮など)の花見、ぶどう狩り、林檎のオーナー制などの外出支援をしています。外食支援は見合わせ中です。中庭で夏野菜栽培、木々や鉢植えなどを観るベンチもあり、気分転換が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族より、お小遣いとして持って来ていただいている。お小遣いは基本的に施設で預かり、本人・家族の希望で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話をしたいという希望があれば、自由に電話が出来るようにしている。遠方にいるご家族からの手紙のやり取りの支援や年賀状を、職員と一緒に作りお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は、常に整理整頓され自由な動きを制限しない様にしている。余暇活動で作った作品をホールの壁に貼り、季節感が出る工夫をしている。中庭にも自由に入出りが出来、縁台に座って坪庭を眺める事が出来る。	共有空間はゆったりとしていて、窓際では観葉植物が安らぎを与えてくれます。余暇時間に作られた皆様の作品が、季節ごとに飾られ壁面を彩っています。皆様が居心地の良い共有スペースで寛がれていて、リクエストに応じた職員のキーボード演奏を楽しんでいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居室では、馴染みの家具を使用し、一人になれる空間を提供している。共有スペースでは、馴染みの関係が出来る様に食事の席を配慮したり、中庭で語り合う場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入居前の生活の継続性を大切に、馴染みのある写真・家具・置物・趣味の物等を持ち込み自由にし、過ごしていただいている。また、寝具も希望があれば使い慣れた物をお持ちいただいている。	個室はすべて窓に面しており、クローゼットやエアコンは備え付けで、間取りは広く取られています。家で使用していた家具や大切に飾る置物、寝具などが馴染みある環境になっています。介護度に応じて対応でき、レンタルベッドの他、お布団を敷いて休まれる方もおられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有スペースにはできるだけ障害物を置かない様にして、自室ドアには大きく名前を貼らせて頂く方もおり、トイレも大きな字で明記している。浴室入り口には「ゆ」と書いた暖簾があり、迷う事は無い。洗面台にもご自分専用にした棚がある。		